

シリーズ2 庭木に利用する樹種の特徴と管理⑩

―ロウバイとソシンロウバイ―

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

花の少ない冬の季節に公園や庭園で黄色い小さな花をつけた低木を見かけます。近づくとよい香りがします。この低木はロウバイかソシンロウバイのいずれかです。今回は、この2種類の樹木を紹介します。

1. 特徴

ロウバイとソシンロウバイはロウバイ科ロウバイ属の落葉低木で、葉の展開に先駆けて黄色い花をうつむき加減に咲かせます。中国では、ウメ、スイセン、ツバキとともに、「雪中の四花」として尊ばれています。江戸時代初期に中国から日本に渡来し、生け花や茶花、庭木として利用されています。両者の違いは花に見られます。ロウバイは花の中心部が暗紫色でその周囲が黄色ですが(図1)、ソシンロウバイは花全体が黄色です(図2)。ソシンロウバイはロウバイから生まれた栽培品種です。ロウバイよりもソシンロウバイの方が広く利用されているようです。

雪を被ったソシンロウバイも見事です(図3)。一見の価値があると思いますので、富山県中央植物園にお出かけください。両方とも園内の「香りの植物コーナー」に植栽されています。

和名は、花が蠟細工のような光沢と透明感を持っているところから名づけられたとする説もありますが、中国名「蠟梅(ラーメイ)」を日本語読みしたもののようです。

2. 維持管理

ロウバイとソシンロウバイは、植栽する場所をあまり選びません。そのため、半日陰でも植栽されていますが、その際は花付きがよくありません。できるだけ日当たりのよい場所に植栽して育ててください。この低木は日本の気候によく合っており、冬の寒さや夏の暑さに強く、とりたてて気を使う必要はありません。

花芽は、その年に成長した枝や幹の基部に付く短い枝に6~7月頃にできます。勢いよく伸びた枝や間延びした長い枝にはほとんど花芽がつかないので、落葉後すぐか、花後につけ根から20cmほど残して剪定してください。枝の基部を残すのは、春以降にその部位に短い枝が発生するからです。当然、その短い枝には花芽が付き、冬には花が咲くことになります。

内側に向かって伸びる短い枝は、樹形を乱したり、日光をさえぎったりする原因になりますので、剪定してください。



図1 ロウバイ (2009.1.29 に撮影)



図2 ソシンロウバイ (2010.1.13 に撮影)



図3 雪を被ったソシンロウバイ (2010.2.3 に撮影)

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。